

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02634

研究課題名(和文) アジア諸言語の文法化現象に関する認知言語学的研究

研究課題名(英文) Cognitive Linguistic Research on Grammaticalization of

研究代表者

山崎 雅人 (YAMAZAKI, Masato)

大阪市立大学・英語教育開発センター・教授

研究者番号：00241498

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本語、朝鮮語、中国語、モンゴル語、現代ウイグル語、ベトナム語とタイ語と文献言語の満洲語文語に対して、試行に用いる視覚動詞の機能の拡張度合いを比較し、北アジア、中央アジア、東南アジアの諸語に対して、東アジアの日本語と朝鮮語で文法化度合いがより進んでいると結論した。また、膠着語的構造の日本語、朝鮮語やアルタイ諸語と孤立語的構造の中国語、ベトナム語やタイ語との間で、その機能がクラスター的対比をなすと述べた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本語と似ている言語が近隣のアジア諸国にどのくらいあるのか、それはどのくらい似ているのかを日本社会に発信して行くことは、学術的・社会的意義がある。ことに、アジアの一言語である日本語と他のアジア諸語にはどのような類似する表現、とりわけ似た発想に基づく表現があるかを具体的な事例をもって示すことは、文字や語彙の借用のように歴史的交流以外にもアジア的発想の広がりを探る研究として、日本語を他のアジア諸語との関係性の中で適切に位置づける研究として意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：Several Asian languages share the grammaticalized element which derives from a visual verb and functions as a conative marker. The present study proposes the criteria for comparison of conative functions among Japanese, Korean, Mandarin Chinese, Mongolian, Modern Uyghur, Vietnamese and Thai, all of whose linguistic data are available from their native speakers. The Written Manchu literatures also provide examples of this phenomenon. This study includes languages in north, central and south-east Asia, concluding that Japanese and Korean in the east region demonstrate visual verbs in more advanced stages of grammaticalization as conative markers. It also demonstrates that there is a contrastive clusterlike difference in functions of grammaticalized conative words originating from visual verbs between languages with agglutinative syntactic structures like Japanese, Korean and Altaistic languages and languages with isolating syntactic structures like Mandarin Chinese, Vietnamese and Thai.

研究分野：言語学

キーワード：認知言語学 文法化 試行マーカ― アジア諸言語 視覚動詞

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初は、それまでに研究の蓄積があった日本語と朝鮮語、さらに満洲語文語の視覚動詞試行文法化について、その形態的・意味的並行性に着目し、Heine(2003)のモデルを適用することで、その段階的差異を表現できると考えた。本研究は、その見方をアジアの他の言語に拡張して、視覚動詞の多義性のひとつである試行を意味する言語データを収集し、どこまで並行性が見られるかを実証することを目指した。他の「アルタイ・タイプ」に分類されるモンゴル語族方言やチュルク語族方言においても同様の現象が確認されていたので、実際に母語話者からの言語データにより、視覚動詞を試行マーカーに用いる時のさまざまな差異が確認できた。さらに、統語的に異なる構造を持つ中国語や東南アジアの諸言語に拡張することを方向性とした。

2. 研究の目的

本研究は、アジアの諸言語の視覚動詞の試行文法化の具体例に対して、認知言語学的理論に基づいた分析を行うことで、より広範かつ汎用性の高い類型論分析を目指した。始めに統語構造に類似性がある東アジアの日本語と朝鮮語を分析対象とし、ついで同じく膠着語的統語構造を持つアルタイ諸語に対して、Heine(2003)の文法化三段階のモデルを適用し、認知言語学の研究方法が適用できる範囲を確認することを目指した。次いで、Heine モデルの文法化尺度が適用できる範囲を超えた言語事例として、統語構造の異なる孤立語的言語の中国語と東南アジアのベトナム語とタイ語の比較研究により、統語構造の異なる言語間での異同を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究の分析方法では、主に認知言語学的アプローチを採用した。「漂白化」「保持化」「主観化」「間主観化」を表す Heine(2003)のモデルを援用した。本研究の分析材料は、母語話者から得た用例であり、その細かな違いなどを彼らの言語的直観で判断すると共に、インターネット上の用例を検索することで広範な用例収集を行った。

4. 研究成果

本研究の成果としては、各年度で着手した順に分析対象の言語ごとに簡単に述べ、またそこに前年度までに積み上げてきた内容を加えて述べる。最後の年度で、孤立語的言語と膠着語的言語がクラスターの対比をなすと述べるのが、本研究の到達点である。

(1) 日本語・朝鮮語

日本語「みる」も朝鮮語 boda 《見る》もまず試行の助動詞になり、続いて結果の含意や因果関係の強調を表す論理関係への展開が生じた後に、次いでともに推量は共通だが、朝鮮語のみは意志表現まで機能拡張をしたうえで、gada 《行く》に代表される形式としては、丁寧さの対人的な表現にまで至ることを実証した。

①試行助動詞 > ②結果含意・因果関係強調 > ③推量・意志の表現 > 丁寧な対人表現

みる

x

boda

(2) 日本語・朝鮮語・アルタイ諸語

現代ウイグル語 baqmaq/körmek やウズベク語 boqmoq/ko‘rmoq などのチュルク諸語、モンゴル語 үзэх、満洲語文語 tuwambi、朝鮮語 boda、日本語「みる」には、漂白化と保持化は見られるが、主観化の推量までは日本語と朝鮮語だけで、さらに意思と丁寧さは朝鮮語のみであり、北東・中央・西アジアのアルタイ諸語にはこれらの用法がない。視覚動詞の試行文法化用法における主観化は、東アジアの二言語の特徴と見なすことができる。

試行助動詞 結果含意・因果関係強調 推量・意思の表現 丁寧な対人表現

	①			
アルタイ諸語	○	○	x	x
日本語	○	○		x

朝鮮語	○	○	○	○
	漂白化	保持化	主観化	間主観化

満洲語文語

満洲語文語で視覚動詞 *tuwambi* 《見る》を試行用法の *omime tuwa* 《飲んでみよ》に転じる文法化現象は、 の論理関係までの段階で、アルタイ諸語にあっては典型的と言える。

①試行助動詞>②結果含意・因果関係強調>③推量・意思の表現> 丁寧な対人表現

満洲語文語			×	×
日本語				×
朝鮮語				
	漂白化	保持化	主観化	間主観化
	ab>b	ab>bc	ab>bc>cd	

モンゴル語（モンゴル語族）

モンゴル語の視覚動詞 *үзэх* 《見る》を視覚活動から試行の意味-ж *үзэх* 《～てみる》とする文法化は、日本語と朝鮮語にも見られる。本研究は、文法化の現象「漂白化」と「保持化」に着目し、同語の特徴を「みる」と *boda* 《見る》との対照研究に基づいて考察し、満洲語文語同様にアルタイ・タイプの典型的言語と論じた。

Япон хоолыг нь идэж үзнэ.

日本 料理を 食べて ~みる

こうした視覚動詞の試行文法化用法は、ハルハ・モンゴル語以外でも、ブリヤート語、オルドス語、カルムイク語などのモンゴル語族の諸語などでも確認できる。

ブリヤート語

bid'e xojor =in odoo or'ald-aad uz-jaa, ge-z'ai-na ge-ne.

1PL:NOM two=3:POSS now compete-CVB.PFV see-1.OPT say.that-PROG-PRS say.that-PRS

「今度はぼくら二人が競走してみるよ」と言ったそう。

(3) 日本語・朝鮮語・中国語

本研究は、中国語の“看”《見る》が、“吃吃看”《食べてみる》のように、試行の意味を表すことに対し、認知言語学の漂白化・脱意味化(bleaching/desemanticization)と保持化(persistence)の概念を用いて分析し、この動詞の助詞化とそれが文中で論理関係を表示する機能を、日本語「見る」や朝鮮語 *boda* 《見る》と比較することで、文法化の段階的差異について考察した。

我們 想去 那 間 新開的 餐厅 看看。

2.PL AUX 行く DEM 軒 新しい レストラン ~みる

「私たち、あの新しく開店したレストランに行ってみたいなあ」

日本語と朝鮮語の証拠性表現に対応する中国語では、試行マーカーの助詞“看”を用いることはなく、中国語視覚動詞の文法化程度は日本語と同じく、主観化の推量までと考える。従って、これら東アジアの三言語間では、中国語<日本語<朝鮮語の順に視覚動詞文法化の大きさを関係づけられる。前二者間では、本動詞の意図性による制限と主観化による推量表現を比べると、日本語の方が中国語よりも自由度が大きい。両語とも主観化の程度は推量にまでは及んでいる点で同等の部分もある。朝鮮語は間主観化まで達している。これら二言語よりも決定的に、より文法化の程度は高いと考えられる。

(4) 日本語・朝鮮語・中国語・ベトナム語

中国語の視覚動詞“看”《見る》が試行の意味を有する文法化と同じ現象は、中国語の南に

位置するベトナム語にも見られる。すなわち、「目で見える」を表す“xem”はそれだけでも、「試す」という意味の動詞“thử”に後続しても、「～を試してみる」という意味で用いられる。本研究は、試行の意味の“xem”を「漂白化」と「保持化」の概念を用いて分析し、その機能を中国語の“看”及び日本語「見る」、朝鮮語 boda《見る》と比較することで、試行文法化の段階的差異に関する考察を行う。本研究は、当該現象を言語の地理的分布と関連させる視座を提起する。

Chị	hãy	nhớ	lại	xem.
2SG.F	IMP	思い出す	再び	～みる

「あなた、思い出してみなさい」

ベトナム語では、試行の xem は意図性のある動詞にのみ接続するという意味制限がある。これは、日朝二言語にはなく、中国語と共有する「保持化」の表れと考える。

これらの四言語の間では、ベトナム語・中国語<日本語<朝鮮語の順に視覚動詞文法化の程度の大きさを関係づけられる。すなわち、地理的に中国語を中心に置いて、その東と南のアジア諸語との比較が可能であると考えられる。

(5) 日本語・朝鮮語・中国語・ベトナム語・タイ語

中国語の視覚動詞“看”《見る》が試行の意味を有することになる文法化という現象は、中国語の南に位置するタイ語にも見られる。すなわち、「目で見える」という意味を表す duu は、単独で動詞の後に置かれても、また「試みる」という意味の動詞 lɔɔŋ に後続しても、「試しに～してみる」という意味で用いられる。本節は、試行の意味を持つ duu に関して、文法化に関連する諸特徴のうち、「漂白」(bleaching)、「分岐」(divergence) 及び「保持」(persistence) 等の概念を適用して分析し、その機能をベトナム語の xem 《見る》、中国語の“看”、朝鮮語の boda 《見る》及び日本語の「見る」と比較することで、試行のマーカ―として用いられる文法化語彙の様相に関する考察を行い、この現象に関する当該言語間のクラスター的な対比の視座を提起するものである。

phôm	lɔɔŋ	kin	phát-thay	duu
1.SG	試みる	食べる	パッタイ	～みる

「僕はパッタイを食べてみる」

タイ語では視覚動詞の実質語用法は失われないうままに実質語用法と機能語用法が共起すると考える。タイ語だけでなくベトナム語や中国語のような孤立語的性格を持つ言語の視覚動詞の文法化には、「漂白」を表す Heine (2003)の‘the bleaching model’よりも Hopper(1991)の「分岐」を適用して見るべきと考える。

タイ語の視覚動詞 duu は、機能語としては試行や経験のマーカ―に、また論理関係を表す構文で用いられる共に、構文によっては実質語としての意味を維持する。これは、視覚動詞が試行などの機能語用法として用いられれば、「目で見える」という実質語の意味解釈ができなくなる朝鮮語や日本語とは異なる点と考える。

孤立語的統語構造を持つタイ語などの文法化では、音形や意味の変化を伴わず、多様な意味機能を持つことが多く、「ハイブリッド形態素」(多機能語(a polyfunctional word))と呼ばれる。本稿で扱う duu もその一例と見なすことができ、元々の実質的・語彙的な「目で見える」という意味を持ちながら、同時に機能的・文法的な試行(や後に見るように)経験などの意味も表すことができる多機能語と見なせる。統語環境や談話の文脈によって、実質語として解釈するのか機能語としてか、どのような機能を持つ語として見るべきかがその都度決められると考える。

なお、Ansaldo et al. (2018)は、‘EMSEA’(=East and Mainland Southeast Asian)諸言語について、ひとつの形態素がその音的・形態的变化を被ることなく様々な多機能性を担うことを論じている。そして、Ansaldo et al. (2018: 229)は、“Some bleaching occurs, but widespread polyfunctionality undermines the semantic dimension of canonical grammaticalization in EMSEA languages.”と述べ、タイ語、ベトナム語や中国語を含むこの地域の言語においては、「漂白」が一部に見られるが、広範に及ぶ多機能性が標準的な文法化の意味範囲を侵食しているとまとめている。すなわち、孤立語では「漂白」は限定的に機能するという現象が見られる。

タイ語、ベトナム語と中国語の三言語で、試行マーカ―が意志的活動を表す動詞句として共起できないという制約は、それぞれのマーカ―となる視覚動詞が前述のように意志的な視覚情報受容を表すところから、元々の実質的意味に関連する意味が保持され、使用制約を引き起こす「保持」(persistence)の例である。意志性の有無が試行マーカ―に関与している点で、タイ語はベトナム語や中国語と同じく、日朝両語より制約が強いと考える。

タイ語の *duu* が単独で文法化により主観化表現になることはない。タイ語の証拠性表現の中には、例えば、*duumǔan* 《～みたいだ・のようだ》のように、統語構造上、文頭あるいは述語の直前(主語はない場合もある)に生起し、視覚動詞起源の形態素を構成素として含む文修飾副詞句として、話し手の主観的認識を表すものがある。統語的な特徴は異なるものの、日本語や朝鮮語の主観化表現と同じく、視覚動詞に由来するタイ語の副詞句 *duumǔan* も証拠性の面では近い機能を有すると考える。

これらの五言語の間では、〔ベトナム語・中国語<タイ語〕:〔日本語<朝鮮語〕のように、統語構造の違いを反映する二群間の対比と、その内部での差異を表現することができる。すなわち、視覚動詞の多機能性において劣る中国語と南のアジア諸語に対して、東アジアの二言語は文法化がより進み視覚動詞の多機能性が顕著であるというクラスター的対比を示すことができると考える。

本研究で論じたのは、以下にまとめられるように、これら五言語の視覚動詞における文法化に見られるふたつの方向性である。

1	視覚動詞 > 試行マーカ― > 経験マーカ― > 前提マーカ―
朝鮮語	boda > boda > boda > boni ・ bomien
日本語	見る > みる > みた > ~ みたら ・ みると ・ みれば
タイ語	<i>duu</i> > <i>duu</i> > <i>duu</i> > <i>duu</i>
中国語	看 > 看 > > 看
ベトナム語	<i>xem</i> > <i>xem</i> > > <i>xem</i>

2	視覚動詞 > 証拠性マーカ―・証拠性副詞句
朝鮮語	boda > na boda ・ryr(‘yr)gga boda ・ bor gei‘io
日本語	見る > ~ みたい
タイ語	<i>duu</i> > duumǔan
中国語	看 > 看来 ・ 看起来 ・ 看上去
ベトナム語	<i>xem</i> > xem chừng・ xem ra

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山崎雅人	4. 巻 7
2. 論文標題 満文与阿爾泰語系、朝鮮語以及日語中的視覚動詞語法化問題初探	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 満学論叢	6. 最初と最後の頁 205-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山崎雅人	4. 巻 14
2. 論文標題 中国語における視覚動詞の試行相文法化の展開	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 言語情報学研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎雅人	4. 巻 1
2. 論文標題 アルタイ諸語、朝鮮語と日本語における視覚動詞の試行相文法化用法の展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語処理学会第23回年次大会予稿集	6. 最初と最後の頁 70-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎雅人	4. 巻 16
2. 論文標題 ベトナム語の視覚動詞の試行相文法化の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語情報学研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎雅人	4. 巻 20
2. 論文標題 タイ語の視覚動詞duuの文法化について ベトナム語、中国語、朝鮮語及び日本語との通言語学的研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報タイ研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 山崎雅人
2. 発表標題 モンゴル語における視覚動詞の試行相文法化用法の展開 - 日本語と朝鮮語との対照研究 -
3. 学会等名 日本モンゴル学会2018年度春季大会 (2018年5月19日)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎雅人
2. 発表標題 ベトナム語の視覚動詞の試行相文法化の展開
3. 学会等名 日本言語学会第156回大会 (2018年6月23日)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎雅人
2. 発表標題 中国語と周辺諸言語における視覚動詞の試行相文法化の展開
3. 学会等名 大阪市立大学中国学会 (2018年7月7日) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎雅人
2. 発表標題 満洲語文語における視覚動詞の試行相文法化用法の展開
3. 学会等名 満族史研究会第32回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎雅人
2. 発表標題 中国語における視覚動詞の試行相文法化の展開
3. 学会等名 日本中国語学会第67回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎雅人
2. 発表標題 アルタイ諸語、朝鮮語と日本語における視覚動詞の試行相文法化用法の展開
3. 学会等名 言語処理学会第23回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎雅人
2. 発表標題 タイ語の視覚動詞の試行相文法化の展開
3. 学会等名 日本タイ学会2019年度研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎雅人
2. 発表標題 中国語の視覚動詞「看」の文法化について
3. 学会等名 日本認知言語学会第21回全国大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考